

乳幼児突然死症候群（SIDS）対策

■SIDS（乳児突発死症候群）のケアは？

就寝中1歳未満の乳児が突然死亡してしまう症候群です。生後2ヶ月～6ヶ月に多く発症する傾向があるが、1歳以上でも発症することもあるので十分な観察が求められます。

■予防の留意点

- ・うつぶせ寝、横向き寝は、仰向けに体位を変える
- ・布団は顔にかからないように首から下にかける
- ・室温と着せすぎに留意する
- ・硬めの敷き布団を使用
- ・午睡中は、子どもの顔を観察できる光源を確保する
- ・スタイ（涎掛け）は外す
- ・午睡用の布団の上にぬいぐるみやおもちゃを置かない
- ・午睡チェック表にて、必ず呼吸チェックの記録をし、保護者のサインをもらう。

■呼吸確認方法

- ・寝息や胸の上下運動、鼻や口元に手をあてて呼吸確認をする

Family Sitter 仙台 午睡チェック表

保育者名

お子さま

体温

℃

月

日

天気

室温

℃

湿度

%

保護者確認

	時間	顔の向き		時間	顔の向き
1	:		19	:	
2	:		20	:	
3	:		21	:	
4	:		22	:	
5	:		23	:	
6	:		24	:	
7	:		25	:	
8	:		26	:	
9	:		27	:	
10	:		28	:	
11	:		29	:	
12	:		30	:	
13	:		31	:	
14	:		32	:	
15	:		33	:	
16	:		34	:	
17	:		35	:	
18	:		36	:	

顔の向き：← ↑ →,うつ伏せを直したとき
★0歳5分おき・1歳～6歳10分おきに確認
★0歳必ず仰向け・1～6歳できるだけ仰向けに寝かせる
★布団の上にぬいぐるみやおもちゃを置かない



MANUALS

04

業務マニュアル

3. 児童の安全確保

児童の安全確保

■安全な環境作りのために大切なことは？
子どもの安全な環境づくりは、親御様やベビーシッターにとって重要な側面です。ただし、子どもの安全を優先するあまり、子どもの好奇心や探究心まで規制してしまい、価値のある体験の場や機会までをとりあげてしまうことは望ましくありません。子どもの成長や発達段階をよく理解し、子どもにあわせた安全で快適な環境づくりに配慮しましょう。

子どもの事故の上位は「不慮の事故」
子どもの事故は、毎日の生活におけるあらゆる場面で発生します。ベビーシッターは日頃から事故防止に気をつけながら保育を行い、事故が起こった場合の対応について事前に準備しておく必要があります。

●子どもの死因順位(平成25年)

	1位	2位	3位	4位	5位
0歳	先天奇形、 変形及び染 色体異常	周産期に特 異的な呼吸 障害等	乳幼児突然 死症候群	不慮の事故	胎児及び新 生児の出血 性障害等
1-4歳	先天奇形、 変形及び染 色体異常	不慮の事故	悪性新生物	肺炎	心疾患
5-9歳	悪性新生物 不慮の事故		その他の新 生物	心疾患	肺炎 先天奇形、 変形及び染 色体異常

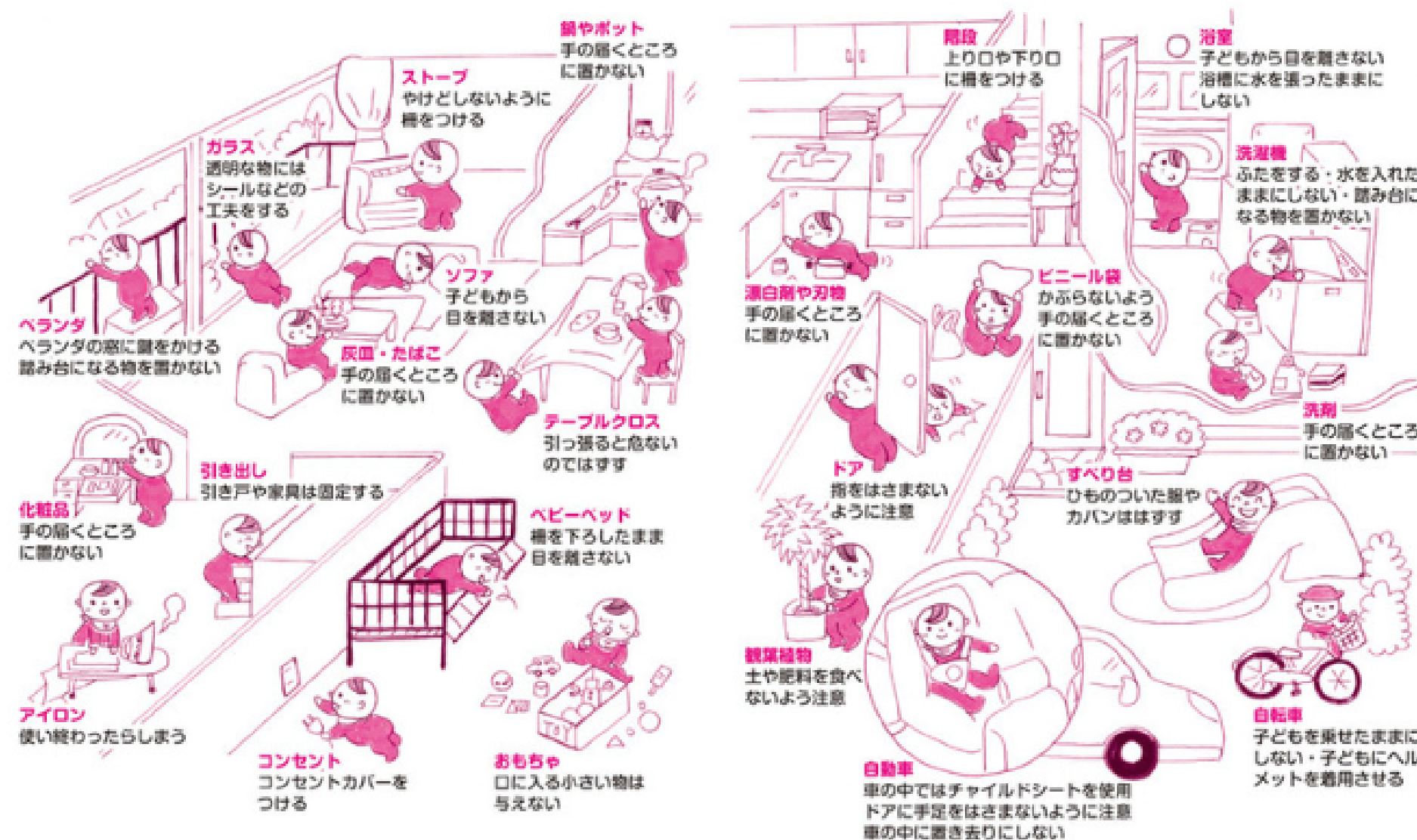
(出所)厚生労働省「平成25年人口動態統計」

子どもの死亡原因のうち「不慮の事故」は1歳～9歳の年齢区分ですべて上位を占めています。
不慮の事故の原因は、0歳では「窒息」が最も多く、その原因には、布団などの寝具による圧迫、タオル・玩具による圧迫、たばこ、医薬品、医薬部外品、硬貨、ボタンなどの誤飲などがあります。1歳～14歳の不慮の事故の原因は「窒息」「交通事故」「溺死・溺水」が例年多くなっています。溺死の発生場所は、川、堀、池が多いものの、自宅の風呂場や洗い場でも発生しています。

児童の安全確保

■子どもの事故の特徴

子どもの成長・発達につれて運動機能、遊びの変化も変化し、発達の段階により事故の原因や内容に变化があります。成長・発達につれて屋外での事故も増えてきますが、大部分は家の中、あるいはその周辺で起こり、しかも思いもかけないような起こり方をします。しかし事故は予防できるといわれています。そのためには、子どもの成長発達を知っておくことが大切です。



児童の安全確保

■起こりやすい主な事故

転落

- 保護者が誤って子どもを落とす
- からだが反り返ったりずり上がって移動し、ベッドやソファから転落
- 柵のないベッドで寝返りをうって転落
- 子供用椅子からの転落
- 階段からの転落
- 浴槽への転落

切り傷・打撲

- ベッドの柵、家具の角などに頭をぶつける
- 破損した玩具で口や手を切る
- 床の上にある鋭いもので口や手を切る
- 刃物やとがった鉛筆や文房具で口や手を切る

児童の安全確保

■起こりやすい主な事故

窒息・誤飲

- 吐乳
- まくらや毛布などでうつぶせ寝、顔にかかって窒息
- 玩具やスタイが首にまきつく
- 小物の誤飲

熱傷

- 熱いお風呂
- 熱い飲み物類
- ポットや炊飯器、ストーブ、アイロン
- テーブルクロスを引っ張ることで、机の上の熱いものがかかる
- 食事、料理の際に誤って熱傷

児童の安全確保

■起こりやすい主な事故

溺水

- 浴槽への転落
- 洗濯機での溺水

屋外

- 自動車事故、自転車事故
- 子どもは大人より視野が狭く、危険を認知するのが遅い
- ひとつのことに夢中になると周りの危険に気がつかない
- 出会い頭の事故、飛び出しが多い
- 車で移動する場合は必ずチャイルドシートを装着する
- 手をつないで歩く、車道側を歩かせない
- 少しの時間でも子どもだけを車に置いて離れない
- 車のドアや窓の開閉ができないようにチャイルドロックをかける

児童の安全確保

■事故防止はまずは「知ること」から

その年齢に起こりやすい事故を知ることによって不慮の事故を減少させることができます。たとえば、乳児初期には動きが不自由なことから布団などによる窒息が多く、手に取ったものを何でも口にもっていく乳児では、たばこやボタンなどの誤飲による窒息が多くなります。また、寝返りやハイハイができるようになると転落がみられるようになり、歩行が進むと転倒や衝突が発生するようになります。事故発生時の様子は、近くに保護者がいたけれど目を離していたというケースもあります。危険についての知識と配慮がないこと（不注意）によって、子どもの不慮の事故が発生しているともいえます。不注意によるうつぶせ寝が原因で、乳幼児突然死症候群が発症するケースもあります。適切な保育によって、不慮の事故は予防できるといえます。

児童の安全確保

■安全なシッティングのために注意すべきことは？

保育環境を安全に管理するためには、チェックリストなどを用い、室内点検、遊具・玩具、室外点検などを行う必要があります。またあと一歩で事故になるところだったという、ヒヤリハッとした出来事（インシデント）を日常的に記録し、その原因分析をしていき、事故予防対策に活用していくことが大切です。

※ヒヤリハット

ヒヤリとしたりハッとしたりした突発的なミスのこと。結果として事故に至らない出来事なので見過ごされてしまうことが多いが重大な事故につながりうる。

児童の安全確保

■訪問時には必要に応じて安全管理チェック表を使用して、家庭内外の安全を確認する

表

Family Sitter 仙台 安全管理チェック表

担当者名

お子さま

年 月 日

※本チェック表はお客様のご家庭を「良い」「悪い」と評価するものではなく、あくまで、安全な保育サービスを提供するためにスタッフが心がける項目を記したものです。

✓	室内の安全面自己チェック
	窓や扉の開閉に問題はないか、破損はないか
	階段や床面がすべらないか
	棚や椅子、家具から釘が出ているところや、ささくれはないか
	スイッチやコンセントの取り付けは安全か
	通行の邪魔になるところ（出入口など）に物を置いていないか
	ブラインドやカーテンの紐がまとめてあるか
	洗濯機のまわりに子どもが踏み台にするようなものは置いていないか
	洗濯機の蓋は開かないよう固定されているか
	浴室にお湯ははっていないか、また中から鍵をかけられないか
	生ゴミや分別ゴミのゴミ箱は子どもが触れないところにあるか
	ベランダや窓に子どもが踏み台にするようなものが置いていないか
	やけどの危険のあるものは子どもの手の届くところに置いていないか
	ストーブには柵がしてあるか
	乳児の布団は固めのものを使用してあるか
	食卓上の熱い食べ物や飲み物は、子どもの手のとどかないところに置いてあるか
	保育する床の上や子どもの手の届くところに、小さなものやビニール袋、たばこ、灰皿を置いていないか
	口の中に入れて危険なものは、子どもの手の届かないようにしてあるか
	遊具の欠損やボタン等はないか

裏

Family Sitter 仙台 安全管理チェック表

✓	衛生自己チェック
	まな板は熱湯消毒や消毒剤で殺菌してある衛生的なものか
	外出帰宅時やおむつ替え後は手洗いをしているか
	生肉や生魚・生卵を扱った後は必ず手洗いをしているか
	手指に傷がある時のおにぎり・サンドイッチ等の調理にはラップ等を使用しているか
	賞味期限の切れた食品は使っていないか
	台所の生ゴミはすぐに片付けているか
	子どもにもトイレ後や外出帰宅後、おやつ前、食事前に手洗いの教育をしているか
	食卓を使用した場合は、きれいに拭いたか
✓	室外の安全面自己チェック
	歩道を歩く場合は、子どもに車道側を歩かせないようにし、手をつなぎ、目を離さないようにしているか
	遊具などを使用して遊ぶ場合は、けがしそうな箇所がないか確認しているか
	熱中症に気をつけ、水分補給と日陰での休息をとっているか
	すべりやすい場所がないか
	道路に面している場合、車や自転車にぶつかる心配がないか
✓	行動チェック
	子どもを抱いて歩くときは十分注意すること
	子どもを抱きながら熱い飲み物を飲んだり、食べ物を食べたりしないこと
	台所で作業する場合は、子どもを台所にいれないようにしていること
	ドアや窓を開める時は、子どもの手の位置を確認してから開めること

児童の安全確保

■事故防止のための安全管理

保育環境を安全に管理するためには、チェックリストなどを用い、室内点検、遊具・玩具、室外点検などを行う必要があります。またあと一歩で事故になるところだったという、ヒヤリハッとした出来事（インシデント）を日常的に記録し、その原因分析をしていき、事故予防対策に活用していくことが大切です。

児童の安全確保

■お子さんの発熱対応について

- ・ 発熱期間と同日の回復期間が必要
- ・ 朝から37.5℃を超えた熱とともに 元気がなく機嫌が悪い 食欲がなく朝食・水分が摂れていない
- ・ 24時間以内に解熱剤を使用している
- ・ 24時間以内に38℃以上の熱が出ていた
- * 1歳以下の乳児の場合（上記にプラスして）
 - ・ 平熱より1℃以上高いとき
 - ・ （38℃以上あるとき）

★予防接種後などの発熱について

熱の原因が必ずしも予防接種とは限らないのと、訪問スタッフが他のご家庭へ菌を運んでしまう可能性もあるため、丁重に訪問中止のお願いをします。

児童の安全確保

■アレルギー児の料理サポートについて

アレルギーの有無については、レゼルバのお客様情報から確認できます。（アレルギーがある場合は、お客様の名前の横に表記あり。例 （卵）仙台太郎

アレルギー児で離乳食が始まっているご家庭では、アレルゲン物質を使った調理は基本的には行わないようにします。お客様よりアレルゲン物質を使って大人の調理を頼まれた際は、一番最後に調理し、菜箸やボウルなどへのアレルゲン物質の付着を防ぐようにします。

また、調理後のお客様への報告では、大人用の料理と子ども用の料理は分けて報告し、その場で疑問点などお客様と共有して誤食を未然に防ぐようにすることが大切です。

児童の安全確保

■熱中症事故の防止について

熱中症事故は、命に関わる危険がありますが、適切な環境で保育を行うことで予防が可能です。活動前に適切な水分補給を行うと共に、必要に応じて水分や塩分の補給ができる環境を整えることや、戸外遊びなどの保育中や室内に入った後に水分や塩分を補給することも大切です。また、熱中症の疑いのある症状が見られた場合には、早期に水分や塩分補給、体温の冷却、病院への搬送など適切な処置を行う必要があります。

日頃から熱中症事故を防止できるように、暑い日には帽子を着用することや薄着になること、身体を動かして遊んだり戸外に出る際には、こまめに水分補給をし休憩をとること、体調がいつもと違うと感じた際には、すぐに保護者や保育士に伝えるなど、発達段階などに応じて適切に言葉をかけることが必要となります。

事故対応の目的

私たちは子どもの命を守りつつ、保護者・行政に説明責任を果たし、再発防止に努めます。

■事故を防ぐための取り組み

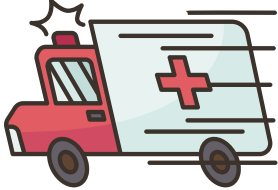
- ・ 毎月の職員研修による知識の習得、危機管理能力の向上
- ・ 毎週のチームmtgでの周知、対応のブラッシュアップ
- ・ 毎日の業務報告にて記録と社内共有
- ・ 責任者を複数名配置し、現場の緊急対応体制を強化
- ・ 毎年救命救急講習を受講することで緊急時の対応力、判断力向上

このフローを全シッターが暗唱レベルで共有し、毎年訓練（BLS＋通報ロールプレイ）を実施することで、
万一の事故でも“命を守る行動”と説明責任を果たします。

事故発生時の対処法

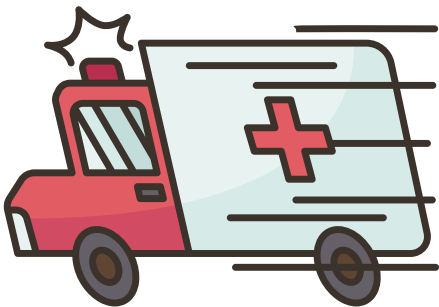
① 最優先（0～5分）：安全確保 & 一次救命



手順	具体的行動	担当
1. 危険除去	落下物・熱源・刃物などを遠ざけ、二次被害を防ぐ	事故を見つけたシッター
2. 意識・呼吸確認	声かけ・刺激→反応なしなら呼吸確認（10秒以内）	同上
3. 応急手当／BLS	・呼吸あり：止血・冷却・固定等・呼吸なし：胸骨圧迫＋AED、可能なら人工呼吸	応急処置係 
4. 119番通報	意識消失／けいれん／頭部強打／大量出血／アレルギー発症など 緊急基準 を満たす場合は直ちに通報	通報係 
5. 役割分担発動	「救護」「通報」「保護者連絡」「他園児保育」「記録」の5役を即時割り振り（通報→救護→連絡の順）	リーダー／先任者 

事故発生時の対処法

■119番通報のテンプレ（保護者配布資料にも記載）
「こちらはFamily Sitterのシッター〇〇です。
子ども（〇歳）が〈状態〉です。場所は〈住所＋目標物〉。
AEDは〈有／無〉、胸骨圧迫を開始済み。入口は〈案内方法〉。連絡先は〈携帯番号〉。」



※通報後も電話は切らず指示に従う。（[CFA Japan](#)）

■参考：救急要否の目安（保護者配布資料にも記載）

必ず119	原則受診	経過観察可（ヒヤリハット）
意識消失、けいれん、呼吸異常、 頭部強打後嘔吐、重度アレルギー 反応、骨折疑い、火傷Ⅱ度以上	1時間以上泣き止まない頭部打 撲、小さな裂創、発熱＋ぐった り、軽度アレルギー	軽い擦り傷、瞬間的な転倒で自立 歩行・会話可能

事故発生時の対処法

② 速やかに（～10分）：連絡・同行体制

1. 保護者へ

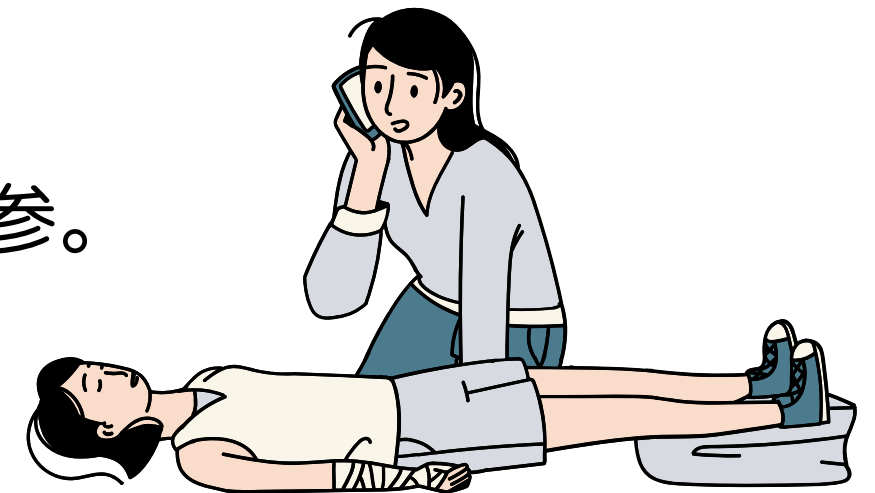
- 連絡時刻・手段を記録し、**事実のみ**を伝達。搬送先が決まり次第シェア。
-

2. Family Sitter本部（緊急窓口）へ

- 事故概要／現場人数／応援要否を報告。本部が行政・保険会社対応の指揮を取る。複数名の子どもを保育時は**連絡を受けたリーダーが状況に応じて、保育の中断（保護者への引き渡し）を判断**する。現場保育を継続する必要がある場合ほかのスタッフを招集。（搬送された子ども以外の子の保護者が迎えに来られない場合など）
-

3. 救急搬送時の同行

- 保険証コピー・事故ログ・アレルギー情報・緊急情報シートを持参。



事故発生時の対処法

③ 30分以内：事故現場の保全 & 初期記録

行動	ポイント
現場保全	動線をマーキングし、壊れた遊具・床材などはそのまま保管。 後から写真撮影。
初期ログ	「時刻-行動-担当」をタイムラインでメモ（黒ボールペン推奨）。あとで報告書へ転記。
子ども・スタッフの心身ケア	怪我していない園児にも安心声かけ。関係職員に交代要員を手配。

事故発生時の対処法

④ 24時間以内：二次報告と行政届出

1. **医療結果の追記**（診断名・全治日数）。
2. **重大事故該当チェック**（死亡・入院・意識不明等）。該当時は**市町村へ24時間以内に速報**、5日以内に詳細報告書。[\(CFA Japan\)](#)
3. **ヒヤリハットでも必ず共有**し、週次ミーティングで原因分析→再発防止策決定。

■チェックリスト（保護者配布資料にも記載）

- ☐ 危険除去
- ☐ 意識・呼吸確認
- ☐ 応急手当／AED
- ☐ 119番（基準該当時）
- ☐ 保護者・本部へ連絡
- ☐ 同行者手配／現場保育中断の連絡
- ☐ 現場保全・写真
- ☐ タイムラインメモ
- ☐ 24h以内に行政・保険報告



事故発生時の対処法

■緊急時対応表

Family Sitter 仙台

緊急時対応表

- ・緊急時はこの連絡先を利用し保護者や病院等に連絡します。救急時には救急対応マニュアルに基づき応急処置、119番通報、保護者連絡、社内共有という順で連携させていただきます。
- ・この用紙はご家庭で保管し、保護者の方が出かけるときに鍵と一緒に必ず保育士に渡して下さい。

名前	生年月日	
既往歴・持病等		
住所		
保護者名	児童との関係	連絡先
保護者名	児童との関係	連絡先
かかりつけ医(科)	電話番号	
かかりつけ医(科)	電話番号	

【保険証またはマイナンバーコピー】

事故発生時の職員対応について

- 意識不明や大きな出血、頭部の打撲、骨折などが起きた場合
- ・必要に応じて、保護者の方への連絡の前に119番通報をいたします
 - ・救急車で搬送が必要な場合は、スタッフが同乗いたします。
 - ・保護者の方にも連絡をいたしますので、いつでも繋がるようお願いいたします。
 - ・事故発生後の対応に関しては、救急隊員の指示に従い報告いたします。
(救急車の必要性や応急処置の仕方、搬送先の病院など)



- ・直接予約の初回訪問時に、保護者の方不在での保育がある場合は記入してもらい、お客様に保管していただく。
- ・お客様が不在になる訪問時には、鍵と一緒にご用意いただく。
- ・緊急時はスマートフォンで電話しながらの顧客情報確認が困難な場合を想定して、必ず紙で印刷して用意してもらう。

事故発生時の対処法

事故報告書

令和 年 月 日

児童名	男・女	生年月日	年 月 日生 (歳 か月)
事故発生状況	発生日時	令和 年 月 日 ()	午前・午後 時 分頃
	発生場所	事故内容	
	発生状況		
	発生後の対応		
	保護者への対応		
	事故防止に向けた今後の対応		
診断名及び処置状況		必要診察日数	

■事故報告書を作成するときの基本ルール

- ①事実を時系列で、客観的に感情的な表現や推測は避け、見聞きした事実のみを時系列に並べます。
- ②“5W1H＋初動対応”を意識
いつ・どこで・誰が・何をしていた・何が起こり・どう対処したかを必ず押さえます。
- ③ヒヤリハットも記録
ヒヤリハットも重大事故と同じ視点で記録し、要因分析と再発防止策を残すことで重大事故を防げます（ハインリッヒの法則）

※20年保存

事故記録のポイント

フォーマット項目	書き方のコツ
児童名・性別・生年月日 (男・女チェック欄あり)	フルネーム（フリガナ不要なら省略可）。生年月日は西暦・和暦どちらかに統一。
発生日時	「令和〇年〇月〇日（曜）午後〇時〇分頃」の形で、分単位まで記載。発見時刻と発生時刻が異なる場合は両方書く。
発生場所	施設名＋部屋名／屋外の場合はエリアまで具体的に（例：〇〇公園すべり台下）。
事故内容	端的な見出し語で「転倒による額切創」「アレルギー症状（じんましん）」など原因＋結果をセットで。
発生状況	①環境 ②子どもの行動 ③職員配置 ④事故発生の瞬間の順に、1文1事実で記録。観察できない部分は書かない。
発生時の対応	①誰が②何分後に③何をしたのかをタイムライン形式で。「14:05 冷水で5分間冷却→14:10 止血確認→14:12 保護者へ電話」など。
保護者への対応	連絡手段・時刻・先方の反応・今後の受診予定を簡潔に。「14:12 母・携帯へ連絡、15:00 来園し受診同意」
診断名および処置状況／必要診察日数	受診後に医師の診断名を正式に転記。未受診の段階では「診察前」と明記し暫定措置を書く。
事故防止に向けた今後の対応	①原因分析（環境・人・手順の観点で）→②一次対策（急ぎの安全策）→③恒久対策（マニュアル改訂・研修など）を箇条書きで。

事故発生時の対処法

■ヒヤリハットを記入するときの追加留意点

- ①「もし〇〇していたら重大事故」まで想定して原因を書く
例：「高さ60 cmの踏み台から足を滑らせたが、すぐ横に職員がいて転落を回避」
- ②再発防止策を必ず具体化（配置変更、備品購入、声かけ方法など）

■よくあるNG集

NG例	修正方法
主観的表現 「急に暴れ出した」	行動を具体的に「立ち上がって走り出した」
「たぶん眠かった」	憶測を削除 or 根拠を追記「午睡前で目をこすっていたため眠気があった可能性」
時刻抜け・曖昧な順序	タイムラインで整理し、時計を確認して都度メモ。
再発防止策が抽象的 「注意する」	「〇月〇日までに踏み台に滑り止めテープを貼付、写真を共有」など行動・期限・担当を明示。

子どもの急変時の症状別対応



窒息対応

背部叩打法と胸部突き上げ法を年齢に応じて実施します。効果がない場合はすぐに救急車を要請してください。



熱性けいれん

安全な場所に寝かせ、衣服を緩め、冷却します。けいれんが1分以上続く場合は救急車を呼びましょう。



アレルギー反応

エピペン®が処方されている場合は使用法に従って注射し、すぐに救急車を要請します。



呼吸・心臓停止

小児CPRを開始します。胸骨圧迫15回、人工呼吸2回の比率で行います。

不審者対策

■保育中、家庭内へ侵入者を防ぐために

★訪問したら必ず施錠する。

★保育者全員は訪問時に会社から支給されたスマートウォッチを身につけ、有事の際に子どもから離れることなく、連絡を取れるようにする。

★保護者が不在中の来客対応は、原則しない。

■屋外へお散歩中・お客様の自宅外での保育のとき

★依頼主の子どもから離れない。

★公園等では依頼主以外の子どもを保育しない。

★保育者の死角が多い場所での保育を避ける。トイレにも同行する。

■不審者に遭遇したら

①子どもを連れてその場を離れ、安全を確保する。

②子どもの心情に配慮し、落ち着かせながら、110番通報をする。

③警察の対応を待ちながら、会社にも連絡する。（電話・チャットにて、状況と子どもの様子を報告）

④保護者には会社から連絡する。

⑤保護者に引き渡すまで、子どもから離れない。

Bluetooth® 通話対応

スマートフォンが手元になくても手首から話せる



不審者対策

訪問者確認

インターホン・ドアスコープで必ず確認します。身分証明書の提示を求めましょう。

連絡報告

状況を会社と保護者に速やかに報告します。詳細を記録しておきましょう。



不審者対応

不審な来訪者には毅然と断ります。必要に応じて110番通報します。

安全確保

子どもの安全を最優先し、セキュリティシステムを適切に操作します。

地震が起きたら

■戸建て住宅の場合

①火を消す。（料理サポートのみ）

②照明の下や窓ガラスのそばから離れ、上や横から物が落ちてこない場所に避難（机の下等）。

③手の届く範囲に布やクッション等があれば、子どもの頭や身体を抱えるように守る。

なければ、保育士の身体で包み込むように子どもを抱き、揺れが収まるまで待機。

（子どもはパニックを起こしやすいので、安心出来る声掛けをしたり、身体を擦ったりする）

※寝ている場合は、毛布や布団で子どもの頭や身体を防御しながら抱きかかえ、安全な場所に移動する。

※怪我をする恐れがあるため、スリッパや靴があるとよい。

★揺れが大きい場合

①窓やドアを開けて、避難経路を確保する。

②被害状況によって、避難場所に移動するかどうか等を保護者と相談。

③『避難所へ移動する場合』参照。子どもの引き渡し。

※山間地の場合は、土砂崩れの危険があるので、速やかに斜面や崖から離れる！

※ガラスの破片や散乱した物でケガないように、安全が確認されるまでは、必ず保育士か親がそばに付く。

地震が起きたら

■高層マンションの場合

①～③『戸建て住宅の場合』同様。

※高層マンションでは、上になる程揺れが大きくなるので、より注意！

★揺れが大きい場合

①～③『戸建て住宅の場合』同様。

④避難する時は、エレベーターは使用せず、階段を使って降りる。

※エレベーターに乗っている時は、一番近い階で降りて、階段を使う。

■沿岸部や川沿いで強い地震を感じたら

①津波注意報・警報が発令されていなくても、一刻も早く、高台や出来るだけ高い所に避難する！
（一刻を争う場合は、荷物を持たない！）

※屋外等にいて保護者と離れている場合、待ち合せたり迎えに行ったりせず、とにかく避難する！

■屋外（送迎・散歩中など）にいる場合

①ブロック塀や看板等の落下物や転倒の危険性がある所から離れ、しゃがんで揺れが収まるのを待つ。

②保護者に連絡をし、帰宅または事前に伝えられている避難場所へ移動。危険の少ないルートを通る。

③『避難場所へ移動する場合』参照。子どもの引き渡し。

火災が発生したら

■調理中、コンロの火が衣服や物に着火したら

①物の場合は、シンクに入れて、水道の水をかけたり、水が入っている洗い桶やボウル等に入れる。
手に持てない場合は、物の上から水をかけて消火する。

②エプロンや衣服に着火した場合、すぐに水をかける。

台所が水浸しになる事は考えず、迅速かつ確実に消火するようにする。

※着衣着火を起こさない為には、袖が広がっている服や、腹部付近にフリルや立体的なキャラクターが付いているエプロンは避ける。また、ポケットに物を多く入れない。

更に、ガスコンロの奥の調味料を取る際は、一旦火を消す等、十分注意しながら調理する。

■調理中、フライパンから火が出たら

【注意！油の量が多い場合、水を入れると瞬時に沸騰し、爆発的な燃焼を起こすうえ、高温の油の飛沫が飛び散るため、絶対にしてはいけない！】

①まずは「落ち着いて」、コンロの火を消す。

②空気を遮断する為、ふたや濡れタオル（タオルを広げるように菜箸に引っ掛ける）で覆いかぶす。

③すぐにタオルを取ると、再燃する可能性があるので、しばらくそのままにしておく。

火災が発生したら

■火元が保育場所の場合

- ①煙や高温の気体を吸い込まないように、子どもや自分の鼻と口を、布や服で抑える。低い姿勢で移動しながら、子どもを安全な場所に避難させる。
 - ②「火災発生！」と大きな声で近隣住民に知らせ、速やかに119番通報する。
 - ③保護者に連絡を取り、子どもの様子や被害状況、引き渡し方法と時間等を確認。
 - ④『避難場所へ移動する場合』参照。子どもの引き渡し。
- ※延焼を防ぐ為、出来るだけドアや窓を閉める。
- ※小さなボヤであれば、消火器を使用したり、濡らしたタオル等を覆いかぶせて、初期消火にあたる。
- 炎が人の背丈程になってしまったら、消火をあきらめ、すぐに避難する。

■周辺が火災の場合

- ①風向き・火災の規模・周辺の危険な場所（工場・ガソリンスタンド等）の有無を確認し、子どもを安全な場所に避難させる。
- ②保護者に連絡を取り、子どもの様子や被害状況、引き渡し方法と時間等を確認。
- ③『避難場所へ移動する場合』参照。子どもの引き渡し。

台風・水害が発生したら

- ①台風情報・天気予報を常にチェックし、状況に応じて保護者に連絡をとり、安全なうちに引き渡しを行う。
- ②停電に備え、懐中電灯や携帯ラジオ（スマホのラジオが聴けるアプリでも可）の準備をする。
- ③断水に備え、ペットボトルやお風呂等に水を確保する。
- ④状況によって、避難場所に移動するかどうか等を保護者と相談。
- ⑤『避難場所へ移動する場合』参照。子どもの引き渡し。

※台風の際に最も安全な場所は屋内であるが、避難勧告が出た時や、河川や傾斜地が近くて危険を感じる時は、自主的に避難する。

避難場所へ移動する場合

- ①保護者と、子どもの様子や被害状況等を相談。避難所へ移動する場合は、引き渡し方法（18歳以上の成人の方・保護者から指示された方）や時間を確認する。
- ②ガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とす。
- ③避難する際は、子どもと避難する（複数人の場合もあり）。
避難に介助が必要な高齢者やペットがいる場合は、ご家族や近所の方に依頼する。
- ④事前に伝えられている避難所へ、荷物を持って移動する（車は使わない）。

不審者に遭遇したら

■屋外で不審者に遭遇したら

- ①『様子がおかしい』『こちらを見ながら付いてくる』『凶器を持っている』等、少しでも異変を感じたらすぐにその場から安全な場所に逃げる。
- ②緊急事態の際は、大声で周囲に助けを求める。
- ③不審者と遭遇した時間や服装・特徴等を警察に通報する。
※不審者に狙われやすい人の特徴として、『警戒心が薄い様子の人』『周囲に人がいない』等がある。
子どもにはばかり気を取られないよう、常に周囲の状況や安全に気を配る事、人通りが多い道を歩く事等を意識する。

■訪問先で不審者が侵入してきたら

- ①すぐに子どもを安全な場所に避難する。
- ②携帯電話を持ちながら「何か御用ですか？」と声をかけ、退室を促す。
- ③不審者が退室しない場合は、子どもと保育者は安全な場所に避難して施錠、もしくは窓から避難する。
- ④不審者が入ってきた時間や服装・特徴等を警察に通報する。
※毎回訪問したら、不審者対策の為、玄関ドアは必ず施錠する。

非常用持ち出し袋の中身

- ・ ウェットティッシュ
- ・ バスタオル
- ・ ビニール袋（大・小）
- ・ 絆創膏（中・小）
- ・ ガーゼ傷パッド
- ・ 使い捨て手袋
- ・ スプレーボトル ※散歩に行く日に水を入れ、怪我をした際に吹きかけて汚れや菌を流す。
- ・ ティッシュ
- ・ 体温計
- ・ ホイッスル

嘔吐処理バケツの中身

- ・ ペットシート
- ・ 雑巾
- ・ 大判ビニール袋
- ・ 取っ手付きビニール袋
- ・ ビニール袋（足用）
- ・ 輪ゴム（足用）
- ・ ハイター
- ・ 水入りペットボトル
- ・ マスク（2枚）
- ・ 手袋（8枚）

連絡先

株式会社キューテスト

〒980-0021
仙台市青葉区中央2-2-30
日興商事ビル 4階

info@cutest.biz

